

# 茨城廃寺跡 —第4次調査 現地説明会資料—

平成24年4月14日 石岡市教育委員会

茨城廃寺跡は、昭和54年～56年の調査(第1次～3次)によって、7世紀後半に建てられた「初期寺院」であることがわかりました。また、出土した「茨木寺」「茨寺」という墨書土器から、「茨城郡寺」であることがわかり、平成24年3月、石岡市の史跡に指定されました。

石岡市教育委員会では、平成23年度から、遺跡の範囲や内容を確認するための発掘調査を開始しました。平成23年度は、次のような成果をあげることができました。



## ○ 寺域の北側の確定

寺の範囲を区画する溝は、昭和56年の調査で発見されていましたが、今回新たに溝の続きやコーナー部分を探す調査区(トレンチ)を設定しました。その結果、北西部では、溝が途中で途切れていることがわかりました。南側には谷地形が迫っていることから、自然の地形を利用して区画としていたようです。一方、北東部では、コーナー部分を確認することができました。これによって、寺の範囲の北側を確定することができました。

## ○ 区画溝の掘り返し

区画溝は、最低1回の掘り返し(溝さらい)がされていたことがわかりました。幅が狭くて深い溝から広くて浅い溝へと掘り返されています。



区画溝の遺物出土状況  
(昭和56年発掘)



講堂・塔 (昭和55年発掘)



C地区 (昭和56年発掘)



●区画溝の西端部分 (G-1T 西から)

区画溝の北西部は途中で途切れていることがわかりました。南側には谷地形が迫っていますので、自然の地形を利用して区画としていたようです。



●区画溝外側の住居跡 (G-3T 北から)



●区画溝外側の住居跡 (C-1T 北から)

区画溝の周辺では住居跡が確認されました。寺に関係する人たちの集落が広がっていたようです。



●区画溝のコーナー部分 (F-2T 北から)

区画溝の北東コーナー部分が確認されました。これによって、寺の北側の範囲を確定することができました。



●区画溝の断面 (F-1T 西から)



●区画溝の断面 (F-3T 南から)

幅が狭くて深い溝から、広くて浅い溝へと掘り返し（溝さらい）がされているのがわかりました。